

外来語の発音・表記について

～ [wi] [we] [wo] と二重母音 [ei] ～

平成24(2012)年6月29日(金)、放送センターで第1358回放送用語委員会が開催された。前回(第1356回)放送用語委員会から引き続き、外来語の発音と表記を議題とした。

今回のテーマは [wi] [we] [wo] と二重母音 [ei] の発音とカタカナ表記についてである。

確認 これまでの議論のまとめ

放送用語委員会では、現在「外来語の発音と表記」について議論をすすめている。これまでの議論で次の3点が確認された。

①外来語を表記する際の基本方針は現在のままとする。基本方針は次のとおり。

基本方針

外国語・外来語や外国の地名・人名などの表記は、それぞれのことばの日本語化の程度を考慮し、次のように扱う。

1. 原音とは異なる慣用が熟しているものは、慣用の形を尊重する。
2. 慣用が熟していないものは、なるべく原音に近く書き表す。

②できる範囲で、新聞などほかのマスメディアで使用されている表記との統一をはかる。

③原音(英語が多い)でどう発音されているかではなく、実際に日本人がどう発音しているかといったことを重視して検討する。

報告 [wi] [we] [wo] の発音と表記

『NHK ことばのハンドブック第2版』「外国語・外来語のカナ表記」の細則の書き方を変更することを検討する。現行の細則([wi] [we] [wo] について)は次のとおり。

原音 [wi] [we] [wo] は次のように扱う。

- (1) 原音に近く書き表す場合は「ウィ・ウェ・ウォ」と書く。
例 スウェーデン Sweden(地)
ミルウォーキー Milwaukee(地)
- (2) 一般的には「ウイ・ウエ・ウォ」と書く。
例 ウイスキー whisky, ウエディング wedding
- (3) 慣用により [wi] を「イ」と書くものがある。

例 サンドイッチ sandwich, スイッチ switch
(注) 地名・人名は「ウィ・ウェ・ウォ」と書く。
例 ウィルソン Wilson(人)
ウェールズ Wales(地)

この細則を以下のように変更する案について議論した。

原音で [wi] [we] [wo] の語は次のように扱う。

(1) [ウィ・ウエ・ウォ] と発音することが一般的である語は「ウィ・ウエ・ウォ」と書く。

例 ウイスキー whisky
ウエディング wedding

(2) [ウイ・ウエ・ウォ] と発音することが一般的である語は「ウイ・ウエ・ウォ」と書く。

(注) 新しく入ってきた外来語は、現代では [ウィ・ウェ・ウォ] と発音される傾向がある。これは当面「ウィ・ウエ・ウォ」で表記することとし、変化してきた場合には別途検討する。

例 アウェー away

(注) 地名・人名は「ウィ・ウエ・ウォ」と書く。

例 スウェーデン Sweden(地)
ミルウォーキー Milwaukee(地)

(3) 慣用により [wi] を「イ」と発音する語がある。こうしたものは、「イ」と書く。

例 サンドイッチ sandwich, スイッチ switch
スイーツ sweets(×スイーツ)

(事務局説明)

発音を考え、そのとおりに表記する。新しく入ってきた外来語は、現代では [ウィ・ウエ・ウォ] と発音される傾向がある。運用上、ひとまず「ウィ・ウエ・ウォ」で書き表すこととする。発音が [ウイ・ウエ・ウォ] に変化してきた場合には、その発音に合わせて表記を検討する。また、[ウイ・ウエ・ウォ] の発音から [ウィ・ウエ・ウォ] の発音に変化し、「ウィ・ウエ・ウォ」で書かれるようになってきていると判断される語も、発音と表記の変更を検討する。地名・人名については、一般の外来語に比べて、原語の発音により近く発音し、そのように書き表したいという意識が働くとされる。そのため [ウイ・ウエ・ウォ] と発音し、「ウィ・ウエ・ウォ」で表記することとする。

(議論)

荻野綱男委員：規則性があれば、調べたうえで、統一していけばいいが、[wi] [we] [wo] のつく外来語は単語ごとに表記のされ方が違う。慣用が一般的になっているかどうかは一語一語検討していかないとわからない。原則を決めても、社会の中で使われる用法がどんどん変わってしまう。常にアンテナをはって、変化を追いかけていけなければいけない。また、地名・人名は「ウィ・ウェ・ウォ」にするとあるが、例えば「Wimbledon」は、地名として使われる場合は「ウィンブルドン」。しかし、「Wimbledon 現象」ということばになるとどうだろうか。語源は地名だが、地名から離れて一般名詞になっているともいえ、迷う。地名の意識が残っているかどうか、個別の検討が必要になる。このようにきれいな結論が出にくいのではないかな。なにか決めなければいけないのはわかるが、どう決めてもうまくいかないのではないだろうか。

清水義範委員：原則を決めにくい問題。語ごとに決めるしかない。感覚的には古くから入っていて耳におなじみの語は「ウィ・ウェ・ウォ」。一方、新しい語、「ナウイ」語は「ウィ・ウェ・ウォ」が「似合う」。新しい語も「ウィ・ウェ・ウォ」と書くとき古くさく感じられる。受け取り手の年代、語の持つ感じなどで選ばれている。これを定義することは難しい。例えば、新しい感じのものは小さく書き、古くさいものは大きく書く、ということだろうが、こうした定義はありえない。ただ、その辺に感覚のもとがありそうだ。語によってふさわしい書き方を選ぶというのが本当の定義なのだろう。それ以外の定義は作りにくい。考え方の目安を決めておくしかない。

井上史雄委員：白でも黒でもないグレーの部分を見て、どちらかに定めることはできないという考え方もある。しかし、黒と白は区別がつかないということではなく、グレーがかった白を見て「白」と判断することもある。あきらかに白と認めるものがあり、黒と認めるものがあるのであれば、それを定めていいと思う。事務局の変更案は、グレーゾーンがあることを認めつつ、白と黒の部分は定めるということで、賛成する。また実態がさまざまであるものを1つに定めた場合、受け止め方はゆるやかだ。黒

と白がはっきりしている語で別の発音や表記を見たら変だと思う。しかし、日常、両方見聞きしているものだと、新聞の表記やテレビでのアナウンサーの発音で自分が使っている発音・表記と違うものが出てきても、そういえばこういう発音・表記もあるなあと認められる。

野村雅昭委員：「基本原則」で「発音と表記は一致させるものとする」としている以上、変更案のとおりにするしか方法はない。あがっている語例が少ない。自分の知りたいことばがのっていないという現場からの注文が出てくるだろう。五十音順の用例集だけでなく、[wi] [we] [wo] に関連したものだけを見たいという要望にもこたえるなど、もっとたくさんの語例を見るにはどうすればよいか。それについて手当てをしておく必要がある。日本人が現在どう発音しているか、1つに決められないから、それがグレーゾーンになる。NHKとしては「こう発音する」と決めておくことが必要だ。しかし、アナウンサーの発音で違うものが出てきたとしてもそれを「間違いである」と決めつけてはいけないと思う。

天野祐吉委員：事務局の変更案でいいだろう。新しい外来語、古い外来語をどこでわけるのが難しい。昭和生まれと平成生まれでわけるというのなかなか難しい。若い人との座談会で「WEB」ということばが出てくると、若い人は「ウェブ」と言うが、年代が上になると「ウエブ」と言う。じゃあ、対談の文字おこしのときに、言っている発音によって表記を変えるのか。印刷物を扱う立場からすると面倒なところだ。書く側としては、一歩進めて「ウィ・ウェ・ウォ」と書くことを原則として、慣用が固定したものは「ウィ・ウェ・ウォ」で書くことにするというのいいのではないかと思う。平成生まれの人の外来語はすべて「ウィ・ウェ・ウォ」になるだろう。そう考えると若い人の意見に合わせたほうがしっくりくる。

町田健委員：この案でいいと思う。語例は増やしたほうがいい。原則で定めたものについては、それぞれのパターンに合わせた語例を入れるべきである。日本人も「ウィ・ウェ・ウォ」と発音する人が多くなってきており、「ウィ・ウェ・ウォ」を原則にしておいていいだろう。昔入ってきたものは「ウィ・ウェ・ウォ」と書くということでもよい。今後どうなるのかと考えると、自分であれば提案の(1)と(2)を逆転させる。

意見交換 二重母音の発音と表記

(原音 [ei] について)¹⁾

原語の発音が [ei] になっている外来語を、カタカナで書き表す場合に、長音符号(「ー」表記)ではなく、「エイ」など「イ」を添えて書き表すもの(「イ」表記)が増えてきている(例:アンチエイジング, エイプリルフル, フェイスなど)。用語班には番組制作の現場から「ー」表記では違和感があるという声が寄せられることがある。本来、外来語は発音と表記を一致させるが、実際には発音に関係なく「エイ・ケイ・セイ」と書かれることが多くなっている。なお、漢語の場合は「エー・ケー・セー」と読んでもよいことになっている(例:「先生(せんせい)」を「センセー」と読んでもかまわない)。また、現代かなづかいでは、発音に関係なく、長音は、母音を添えて書くことにしている(例:おねえさん, おかあさん, ~めいて)。同じ発音のもので、外来語と和語・漢語で表記の扱いが違うため、混乱が生じている。

二重母音 [ei] の発音と表記について、NHKでは現在次のような細則を決めている。

(1) 原語の二重母音 [ei] [ou] などは原則として「ー」を用いて書く。

例 ゲーム game, メール mail, レート rate
ボート boat, ホーム home, ローン loan
例外 エイト eight, ペイ pay
レイアウト layout
フェイルセーフ fail-safe
ケインズ Keynes (人)
サラダボウル salad bowl
ボウリング bowling

(2) (中略)

(3) 慣用により長音符号の代わりに母音字を添えて書くものがある。

例 バレエ ballet, ミイラ(ボ) mirra

事務局では、これを [wi] [we] [wo] のカタカナ表記の細則の変更案に合わせて、次のように変更することを検討する。

(1) 原音が二重母音 [ei] [ou] の語は次のように扱う。
・[ei] の場合

①長母音で発音することが一般的である語は、「ー」(長音符号)を用いて書く。

例 ゲーム game, メール mail, レート rate

②[エイ] で発音することが一般的である語は「エイ」と

書く。

例 エイト eight, ペイ pay
レイアウト layout, フェイルセーフ fail-safe
ケインズ Keynes (人)

(注) 新しく入ってきた外来語は、現代では、[エイ] と発音される傾向がある。こうした語は当面「エイ」と表記することとし、発音が変化してきた場合には、表記を別途検討する。

例 ネイル nail, メイド maid

・[ou] の場合

原音が [ou] の語は、長母音で発音されることが一般的であり、長音符号を用いて書く。新しく入ってきた外来語も同様と考える。ただし、[オウ] という発音が慣用として定着している語は「オウ」と書く。

例 ボート boat, ホーム home, ローン loan

例外 サラダボウル salad bowl

ボウリング bowling (球技)

(2) 中略

(3) 慣用により、発音にかかわらず母音字を添えて書くものがある。

例 バレエ ballet, ミイラ(ボ) mirra

(事務局説明)

[wi] [we] [wo] と同様に、どのように発音するかを中心に考えることとする。これまで [ei] と [ou] は同じ細則になっていた。しかし、表記のゆれは [ei] が中心である。原音が [ou] の語は、ほとんどが長母音で発音され、[オウ] と発音されるものは、今のところ限られている。同じ二重母音であっても [ei] と同じルールでは考えにくいため、「[ei] の場合」と「[ou] の場合」とに分けることを提案した。

なお、外来語で長音符号を使うものには、原語の語末に「-ar, -er, -or, -y」がつくものもある。こうした外来語のカタカナ表記についてはこれまでどおり長音符号で書き表すこととする((2) 中略部分)。

(議論)

町田健委員: 発音に一致させるということでかまわないと思うので提案のとおりで問題はない。[エイ] という発音は、[ウィ・ウェ・ウォ] と比べると浸透しているとは言えない。かなり例外的な現象だと思う。「メール」は例外だが、nail, maidなどは英語のつづりを見て「イ」を入れたくなるのだろう。ただ実際の発音は「ネール」「メード」だと思う。はたして表記は「ネイル」「メイド」のままでもいいのかという問題はあるだろう。発音と表記が一致していない例とみなすことができるので、私であれば「ネール」「メード」とする場面だ。

天野祐吉委員：原則としては新しい語は「エイ」としたほうがよいように思う。ただ、語によっても違う。「ゲーム」「メール」は「ゲイム」「メイル」ではおかしい。今まであるものは長音のままでもいいだろう。ただ新しいものは「エイ」で入ってくるが多くなるのではないか。「エイ」のほうが新しい、かっこいい、センスがあると感じられる場合があるだろう。自分でもあえて「イ」を入れることもある。人によってそれぞれの書き方があっていいように思う。必ずどちらかにすべきというわけではないのではないかな。

野村雅昭委員：この問題では、もうひとつ大きな外側の原則を考えなくてはいけない。和語や漢語のかなづかいと、外来語の表記の基準との関係である。発音に従って書くことにすると、音と文字の対応関係が成り立つ。発音が〔エー〕の場合、表記は「エー」または「エイ」。一方〔エイ〕という発音には「エイ」の表記が成り立つ。かなづかいはここでおさめようとするものだ。しかし、実際には、〔エー〕の発音に対して「エー」「エイ」の表記、〔エイ〕の発音に対して「エー」「エイ」の表記があるなど複雑な対応がおこっている。発音から表記というところでは問題は少ない。しかし、それをどう読むかというところで混乱が生じている。それが和語、漢語と根を同じくしているところで問題が大きくなっている。外来語というものをどの範囲で限って考えるべきかということにつながる。外来語を流入年代や使用する年代によって区切らず、外来語は外来語として1つのグループとする。もちろん、外来語と和語で境界があいまいなものもたくさんある。しかし、放送で取り上げる範囲の外来語の中で、できる限り例外が少なく説明できるような原則をたてる必要がある。今、こう発音するものはこう書くというようにしていくしかないと思う。そういう点では事務局の検討案でよいだろう。

井上史雄委員：「エイ」「オウ」について話し合っている理由を考えてみる。ひらがな表記の「けいとー」を「毛糸」では〔ケイト〕と発音し、「系統」などの漢語では〔ケートー〕と発音する。和語、漢語で〔ei〕を含む語の発音は文脈で判断して発音している。内閣告示²⁾には「外来語は長音符号で書く」とある。「現代かなづかい」³⁾で和語・漢語では長

音を使わないことにしており、内閣告示のこの文言によって和語・漢語と外来語は違うことが示されている。ところがNHKの〔ei〕を含む外来語表記の細則には、このことが言及されていない。そのため、問題点がわからなくなってしまった。細則に「原音」ということばは出すべきではなかったろう。今回の提案は、発音を基準にしており、進歩だと思う。外来語のエイ・オウの表記原則は和語・漢語とは違うのだということをごくひとこと入れておけば、読む人もその点位置づけができる。

清水義範委員：事務局案に賛成である。「と発音されることが一般的である語は…」という決め方はうまい言い方だなと思う。わかりやすいと思う。「エイ」と書くほうが新しい。新しく入ってくるものは「イ」で書くものが多いだろう。新しそうなものにどこまで合わせるかが問題になる。

荻野綱男委員：〔ei〕の問題のほうが〔wi〕〔we〕〔wo〕に比べると混乱が少ないと見ている。ゆれの程度が少ない。〔ei〕の表記にゆれがあるという印象が日常的に少なく、単語ごとに「エイ」「エー」でだいたいの習慣ができています。この習慣を追認してしまえばよい。慣用ができてしまっているものはそれに従うということだろう。検討案で問題はない。

山下洋子（やました ようこ）

注：

- 1) 外来語の表記で、〔ei〕と同じように扱われる二重母音には原音で〔ou〕と発音される語も含まれる。二重母音〔ou〕も長音符号で書き表すが「ソウルミュージック」などのような例外もある。しかし「オウ」の発音や表記が広がっているわけではない（ただし、「アイシャドウ／アイシャドー」など一部ゆれのある語も存在する）。今回の用語委員会では〔ei〕の発音・表記の問題にしばって考えることにする。
- 2) 内閣告示「外来語の表記」（平成3年6月28日）
- 3) 内閣告示「現代仮名遣い」（昭和61年7月1日）

第1358回放送用語委員会（東京）

【開催日】平成24年6月29日（金）

【出席者】天野祐吉氏、井上史雄氏、荻野綱男氏、清水義範氏、野村雅昭氏、町田健氏、森本和憲 放送文化研究所所長 ほか